



▲鴨稻荷山古墳家形石棺（6世紀前半）

継体天皇 千五百年の謎

継体の生誕地・高島から探る

高島を生誕地とする継体大王（継体天皇、男大迹王）は、西暦507年に樟葉宮（現在の枚方市）で即位したと伝えられています。それは、今から約1500年前のことです。

『日本書紀』によると、継体大王は、応神天皇の5代目にあたる子孫で、彦主人王の王子とされています。彦主人王が、近江国（滋賀県）の高島の三尾の別邸に住んでいた時に、越前国（福井県）から振媛を妃（妻）に迎えます。そこで継体大王が、生まれたとされています。

高島市には、継体大王の生誕地としての伝承や、関連する遺跡が多く残されています。継体大王の父、彦主人王の墓所と伝えられる「田中王塚古墳」・振媛が継体大王を出産した時にたれた石・継体大王を出産した時の胞衣を埋めたという伝承が残る「胞衣塚」・金銅製の宝冠・飾履など豪華な副葬品がおさめられていた「鴨稻荷山古墳」が存在します。鴨稻荷山古墳の被葬者は、越前をはじめとする北陸諸国や、大和・河内の有力者と関係を持ち、継体大王の擁立に深く関わった豪族の墓ではないかと推定されています。

今回の高島古代史フォーラムは、一連のまとめとして、「継体天皇千五百年の謎」をテーマに、継体大王の即位の経緯や、継体大王を支援した勢力について文献史料や考古学的見地から考察し、継体大王の謎に迫ります。ぜひ、ご参加ください。

（文化財課）

高島古代史フォーラム

「継体天皇 千五百年の謎
継体の生誕地・高島から探る」

日時 10月31日（日）
10時～17時

場所 藤樹の里文化芸術会館

内容 特別講演
「文献史料から見た継体天皇の即位事情」

講演Ⅰ 塚口義信さん
（堺女子短期大学 名誉学長）

講演Ⅱ 高橋 克壽さん
（花園大学 教授）

講演Ⅲ 中司 照世さん
（元福井県埋蔵文化財調査センター所長）

講演Ⅳ 辻川 哲朗さん
（財団法人滋賀県文化財保護協会主任）

公開討論会
コーディネーター 水谷 千秋さん
（堺女子短期大学 准教授）

定員 400人（先着順）

参加費 500円（資料代込）

受付 9月15日（水）から

関連事業

継体天皇関連遺跡等の
現地学習会

日時 10月30日（土）
13時30分～17時

場所 鴨稻荷山古墳、
田中王塚古墳など

定員 50人（先着順）

参加費 100円（資料代込）

解説 水谷 千秋さん
（堺女子短期大学 准教授）

受付 9月15日（水）から

★詳しくは、文化財課までお問い合わせください。

問・申文化財課

TEL (32) 4467
FAX (32) 3568

編集者のつぶやき

表紙は、子どもサバイバル訓練のようす。災害時に必要なものがないという想定で、朝からサバイバルクッキング。災害時には知恵と工夫が大事です。午後からもたくさんの訓練が。暑い中、保護者の皆さんもお疲れさまでした。こういった機会に、災害への備えについて家族で話し合っただけであればと思います。訓練終わりには、クワガタをプレゼント。子どもたちは笑顔で訓練を締めくくりました。（広報担当S）